

# 廃バッテリー

## 市中相場半年ぶり反発

### 買い気戻り需給締まる

鉛リサイクル原料の廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の市中取引相場が反発した。昨秋から下がり続けていたものの、足元は底を打ってキロ70円台に戻しつつある。今月前半までの鉛建値の上昇局面では下落し、建値が反落すると逆行高をたどるなど、あらためて指標との運動性の薄さを印象付け、二次精錬メーカーなどは原料コスト高騰の再来に対する不安を抱いている。

### 指標連動性の薄さ鮮明に

一次集荷業者への持ち込み価格は現在70〜75円どころ。先週までの70円割れから半年以上ぶりに反転した。昨

年の最高値時からは3割以上急落し、値ごろ感が出たため、高値を敬遠していた二次精錬メーカーの調達が増え

たことや、韓国向けの輸出が戻り、需給が引き締まったことが背景とみられる。地金やスクラップの

価格指標となる鉛建値は、今月前半に5カ月ぶりの高値27万2000円を付けたが、廃バッテリー相場は約5年ぶりに70円割れ。その後、建値が2度にわたって下方改定されて2

カ月ぶり安値25万8000円にダウンしたが、廃バッテリーは反発し、指標と全く逆の値動きとなっている。

「廃バッテリーは指標よりも需給によって左右される（二次精錬メーカー）といわれ、中でも鉛リサイクルが盛んな韓国の二次精錬業界の買い気が鍵を握っている。日本は14年

手国だったが、15年から韓国が、バッテリー製品の輸出先である米国やUAE（アラブ首長国連邦）から輸入ルートを築き、日本に対する輸出圧力を抑えていた。

さらには昨秋、韓国が日本に対して放射能検査を厳格化した影響で、廃バッテリー輸出が一時停滞し、国内市況の潮目が変わった。国内需給が緩んで買い手優位の商況に転じ、市中相場はほぼ一本調子で60円台後半まで下がったが、ここに至って底ばい期間を経ずに反発した。このまま上値を追えば、鉛リサイクルの国内空洞化に対する懸念が再燃しそうだ。